

H.Y.さん

学校名: Universidad Nacional Autónoma de México (UNAM: メキシコ国立自治大学)

専攻: 教育学

課程: 学士 / 交換留学

留学期間: 2008年8月 ~ 2009年6月

いざ、留学！

私が留学を考え始めたのは、高校生の頃でした。「日本とは違う国を見てみたい、しかしイギリスやアメリカのような英語圏ではなく、他の国を。」漠然とそう考えていました。世界で使用している人口が多いかとの理由で選んだ第二外国語としてのスペイン語。直接的にはこの選択が私とメキシコを結びつけたのです。そもそも日本とメキシコの間に交換留学制度があるのを知ったのはスペイン語の学習が面白くなってきた3年生のはじめ頃に知り合いからたまたま聞いたのがきっかけでした。外国語学部がない私の大学においては、語学の学習は「読み」が中心。そのため、以前から抱いていた思いと、読解だけにとどまらず、全身で違う文化を自分の中に取り込みたい思いが重なり、日墨研修生・学生等交流計画の試験を受けることにしました。試験には日本各地の大学生や社会人が応募しますので、できる限りの準備をして臨み、なんとか合格することができました。具体的な試験対策は、短いスペイン語の戯曲を一冊読み、語彙と文字に慣れるようにしたことでした。

留学準備

試験の結果発表から渡航まで半年以上の時間がありました。想像以上に時間があつたためしばらくの間準備を怠っていた結果、渡航直前に慌しく準備することとなってしまいました。しかしながら、パスポートやビザをはじめ、書類手続きは大使館がおおむね行ってくれたため、非常に助かりました。予防接種は、接種が完全に完了するまで半年以上かかるものもあるので、その点に注意して早めに始めることをお勧めします。

留学して

空港に降り立った時点で、メキシコ生活は幕を開けました。初めてのメキシコ料理、今まで通ったことのない語学学校、通い慣れない異国の道など全てが新鮮でした。メキシコ料理は油を多用するのが特徴で、人によって好き嫌いがあるかもしれません。しかしポソレという煮込みスープをはじめ伝統料理といわれるものは本当に美味しく、健康にもよいと思います。でも何といてもメキシコの国民性が一番印象的でした。日本での一般的なイメージとは違い、いつも陽気で、道ゆく人が本当に親切で、初対面でもふとしたきっかけで会話が始まるなど、新たな出会いがそこかしこに満ちています。ただし彼らに道を聞いたとき、答えが合っていないでもそれはご愛嬌です。メキシコでは、何かを聞かれたら、知らなくても答えられないほうが失礼に当たるらしいのです。フィエスタ(パーティー)で発散される彼らのエネルギーは、いったいどこから湧いてくるのかと尋ねたくなるほどた

くましいものです。住めば住むほどメキシコの奥の深さを実感します。帰国して留学生活が終わったとしても、私の中にメキシコの風景は根付きますし、メキシコでの経験は日本で見慣れていた景色をほんの少し違った形に見せてくれるはずです。